

# 平成23年度 学園の財務について

## はじめに

平成23年度は、3月11日(金)14時46分に発生した東日本大震災(東北地方太平洋沖地震及び巨大大津波に伴う原発事故や計画停電等)による未曾有の社会的混乱と余震の中で始まりました。そして、夏の電力不足や海外の金融不安・景気減速・水害等のあおりも受ける中で、国力の衰えを予感させる少子高齢化、貿易収支の赤字化、財政状況の悪化等に依然として歯止めがかかる見通しを欠いたまま、国会の消費税増税をめぐる争論の中で、めまぐるしい一年の年度末を迎えました。

震災からの復興はなかなか進まず、欧州の債務危機をはじめとする世界的な政情不安のなか、国内景気の停滞に伴い、生産と消費の後退や家計収入の悪化等、日本が置かれた内外の厳しい環境の変化は、今後、私学の財務運営にも大きな影響を及ぼして参ります。

定員割れの私立大学は全体の4割に上り、都内でも平成25年度から学生募集を停止する大学が現れたと日本経済新聞(平成24年4月30日)が報道しておりますが、私立大学の閉校が地方からいよいよ首都圏にまで及んできています。

18歳人口の急減が再び数年後に口をあけて待つことからの厳しい競争環境を勝ち抜くために、新たな将来計画の立案に当たっては、今後の出願校選択、入学辞退、中途退学をはじめ進学・就職状況等の動向や価値観の流動化について、既存認識に縛られることなく、一段と注意深い対

応をしていく必要があります。

このような状況において、今後とも学園は、「選ばれる私学」として、女子の新しい進学需要を開拓し、学びへの期待に応える満足度の高い「優れた教育」を提供できる「常に改革し動いている跡見」であることが求められます。そのために、現在、学園が新たに取り組む教育改革は、昨年度に引き続き、大学にあつては、都心と郊外にキャンパスを有する女子大学として、これを活用する教育課程の革新と女性の可能性を最大限に引き出すための新たな教育方法の追求であり、また、中学高校にあつては、面倒見がよく、一段と高い大学進学競争力をもった学校となるための教育体制の刷新であります。

学園としては、日本近代女子教育の先駆的な私立学校である「跡見学校」以来の伝統を継ぎ、女子教育に対する深い使命感と高い財務規律に立って、今後とも如何なる環境の変化にも対応できる強い経営基盤を堅持し、些かの不安も生じることのない健全な財務運営を図っていく所存であります。

## 平成23年度の事業実績

### ①東日本大震災に伴う

#### 新座キャンパスの補修工事

東日本大震災に伴う新座キャンパスの被害状況への対応について、1号館は建物の構造耐力への影響は危急処置により地震前の状態に戻すことが可能、2号館は建物の構造について問題なしとの診断結果が得られました。施設については、地震前の

原形復旧により、建物として従前の安全性は確保されることから、大学の春学期授業が開始となる5月6日(金)に間に合わせるため、4月16日(土)～27日(水)で補修工事を行いました。

### ②余震に対し避難しやすしい

#### 教室確保のための改修工事

余震頻発のため避難の安全を確保する必要の観点から、新座キャンパス1号館の3階以上の教室利用を控えるため、補修工事と並行して、新座キャンパス2号館低層階の8教室を普通教室に改修し、また図書館(3階建)の一部についても教室として利用できる仕様に切り替えました。

### ③サーバの外出しによる

#### 学園ネットワークの再構築

東日本大震災による新座キャンパス停電に伴うWebサーバ、Mailサーバ等の全面的なダウンの経験を踏まえた対応策を検討するためにネットワーク会議を設置し、その審議に基づき、従来と通りの機器更新を取り止めて、平成24年度中に基幹サーバを中心に学外のデータセンターにサーバを出すことによる学園ネットワーク再構築を実施に移すことを決定しました。

### ④東日本大震災の被災学生に

#### 対する学費減免

東日本大震災の被災学生に対する学費減免(授業料免除)については、親元の家屋が損壊した者のほか、震災に伴って発生した原発事故の避難区域に親元がある者で、家屋損壊状況が確認不能、又は損壊軽微であっても避難により収入途絶・激減に直面し、就学継続が困難になっている

者についても、減免対象として実施しました。(平成24年度も継続)

### ⑤第21期役員及び評議員の改選

理事会(357回)及び評議員会(311回)をもって第21期の役員及び評議員の改選が終了し、理事長には山崎一穎氏が再任されました。

### ⑥予算編成における事業計画別

(業務目的別)予算コードの導入  
業務それぞれと予算との関係を明確化し、予算使途について教育機関としてのアカウンタビリティを高めるため、組織縦割りの予算コード(形態別)をそのまま使って業務コードとしていたことを改め、平成24年度予算編成から、財務システムに新たに実際の業務に即した事業計画別(業務目的別)予算コードを導入しました。

### ⑦大学将来構想の検討

「将来問題検討会議答申」に対し、市場展望と学園財務という内外の環境を勘案し、経営的視点から改めて全学教授会に学長提案(新学部設置と既存学科の入学定員見直しについて検討)を行い、学部設置準備委員会を発足させました。

### ⑧大学グリーンホルルの

#### 食堂リニューアル

昭和55年12月に建設されて以来、そのまま変更されることなく今日に至っていたグリーンホール1階の食堂のフロアが平成24年3月にリニューアルされ、一人席、カフェラウンジ等の新しいエリアが設けられるとともに、テーブルや椅子も一新され、女子大らしい明るく華やかな雰囲気になりました。

## ②消費収支計算書

### 消費収入の部

(単位 千円)

科目	平成23年度 決算	平成22年度 決算	増減
学生生徒等納付金	5,462,494	5,497,516	△ 35,022
手数料	98,139	107,454	△ 9,315
寄付金	171,285	175,620	△ 4,335
補助金	723,561	786,864	△ 63,303
資産運用収入	43,816	45,353	△ 1,537
事業収入	119,754	122,121	△ 2,367
雑収入	160,136	130,998	29,138
帰属収入合計	6,779,185	6,865,926	△ 86,741
基本金組入額合計	△ 348,268	△ 581,497	233,229
消費収入の部合計	6,430,917	6,284,429	146,488

### 消費支出の部

(単位 千円)

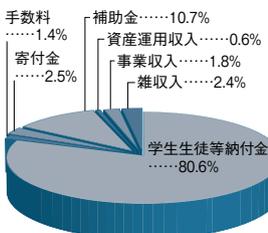
科目	平成 23 年度 決算	平成 22 年度 決算	増減
人件費	3,525,705	3,498,023	27,682
教育研究経費	1,865,745	2,028,212	△ 162,467
管理経費	727,151	791,314	△ 64,163
資産処分差額	685	2,353	△ 1,668
徴収不能額	8,029	4,241	3,788
[予備費]			
消費支出の部合計	6,127,315	6,324,143	△ 196,828
当年度消費支出超過額		39,714	
当年度消費収入超過額	303,602		
前年度繰越消費支出超過額	3,852,503	3,812,789	
翌年度繰越消費支出超過額	3,548,901	3,852,503	

●消費収支計算書の科目構成は、多くの点で資金収支計算書と重複しています。資金収支計算書は、支払資金の出入りの把握が主目的であり、預り金や仮払金のような学園の純資産の増減に関わらない科目も含まれています。それに対して、消費収支計算書では、「その年度における消費収入と消費支出の内容及びその均衡状態を明らかにする」という主目的から、支払資金の出入りに関らず学園の純資産の増減に関わる科目が記載されています。例えば、「現物寄付金」は支払資金の入りがないので資金収入には含まれませんが、学園の純資産が増加するので帰属収入に含まれます。支出面については、「減価償却額」は資金の流出はないので資金支出ではありませんが、固定資産の価値の減少を反映するものなので消費支出となります。また逆に、「施設関係支出」、「設備関係支出」は資金の流出を伴うため資金支出となりますが、学園全体として見れば純資産が増加するのではなく、流動資産が固定資産に形を替えたに過ぎないので消費支出には含まれません。また、収支の均衡状態については、通常は帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入(消費収入)と消費支出との比較によって示します。

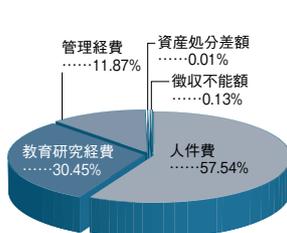
●基本金は、学校法人会計固有の概念のひとつで、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきもの」とされています。これは、企業会計とは異なり、教育研究活動を継続的・安定的に提供することができるかどうかを示す学校法人会計固有の目的を達成するために要請される概念であると言えます。すなわち、帰属収入から基本金組入額を控除した残りの収入(消費収入)と消費支出との均衡状態が保たれていれば、学校法人の永続的な運営に必要な、例えば施設や設備等の更新のための資金を自己資金として確保できていることを示す計算構造となっているわけです。

●平成23年度の帰属収入は、学生数の減、補助金収入の減等により平成22年度と比べて合計で86,741千円減少しました。一方、消費収入は、基本金組入額が予算額を下回ったことにより、前年度より146,488千円増の6,430,917千円となりました。消費支出は、人件費、教育研究経費、管理経費とも予算額を下回ったことにより、全体では前年度より196,828千円減の6,127,315千円となりました。これらの結果、平成23年度の消費収支については、平成22年度の支出超過から転じて、303,601千円の収入超過となりましたが、ネットワークリブレイスの実施年度変更を加味すれば、ほぼ収支均衡に近い状態と言えます。

### 平成23年度の帰属収入の構成



### 平成23年度の消費支出の構成



## ①資金収支計算書

### 収入の部

(単位 千円)

科目	平成 23 年度 決算	平成 22 年度 決算	増減
学生生徒等納付金収入	5,462,494	5,497,516	△ 35,022
手数料収入	98,139	107,454	△ 9,315
寄付金収入	165,532	170,562	△ 5,030
補助金収入	723,561	786,864	△ 63,303
資産運用収入	43,816	45,353	△ 1,537
事業収入	119,754	122,121	△ 2,367
雑収入	204,805	113,021	91,784
前受金収入	1,230,868	1,331,441	△ 100,573
その他の収入	8,226,208	7,513,784	712,424
資金収入調整勘定	△ 1,515,261	△ 1,498,661	△ 16,600
前年度繰越支払資金	7,800,411	7,807,060	△ 6,649
収入の部合計	22,560,327	21,996,515	563,812

### 支出の部

(単位 千円)

科目	平成 23 年度 決算	平成 22 年度 決算	増減
人件費支出	3,674,128	3,525,649	148,479
教育研究経費支出	1,181,541	1,242,683	△ 61,142
管理経費支出	671,688	733,226	△ 61,538
施設関係支出	349,852	219,365	130,487
設備関係支出	109,367	374,697	△ 265,330
資産運用支出	2,431,640	1,911,938	519,702
その他の支出	6,573,818	6,319,094	254,724
[予備費]			
資金支出調整勘定	△ 120,112	△ 130,548	10,436
次年度繰越支払資金	7,688,405	7,800,411	△ 112,006
支出の部合計	22,560,327	21,996,515	563,812

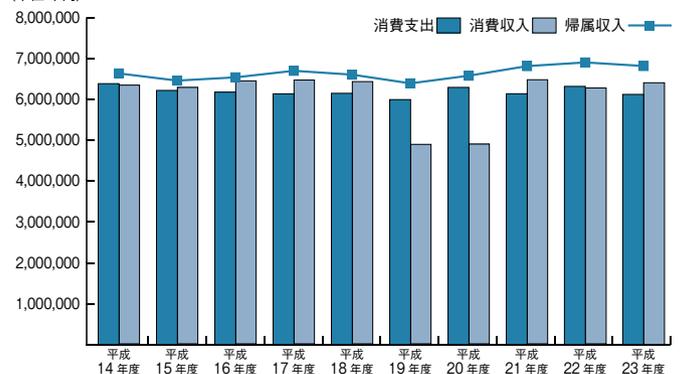
●資金収支計算書は、消費収支計算書と同様、学校法人会計基準によって定められた計算書類のひとつで、一般の企業会計とは異なる学校法人会計固有の計算書類です。

●消費収支計算書の目的は、第一に、その年度における教育研究活動、その他の諸活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにすることです。この場合の「すべての収入と支出の内容」は、その諸活動に係る資金の出入りが必ずしも実際にその年度中に発生したものとは限りません。第二に、当年度における資金の収入及び支出のてん末を明らかにすることです。つまり、第一の目的とは逆に、当年度の諸活動に対応する取引でなくとも、当年度に実際に支払資金の出入りがあれば漏らさず記録するという意味です。資金収支計算書は、このように二つの異なる目的を同時に担っていることから、それぞれの目的に係る収支をそのまま集計すると、実際の支払資金の残高と合致しなくなるので、これを調整する意味で、資金収入調整勘定及び資金支出調整勘定という科目が設けられています。

●平成23年度の収入の部の合計は22,560,327千円でした。一方、支出の部のうち人件費支出から資金支出調整勘定までの当年度の支出額の合計は、14,871,922千円でした。その結果、次年度繰越支払資金は、7,688,405千円となりました。前年度繰越支払資金が7,800,411千円でしたので、支払資金は、6,649千円減少したこととなります。また、前受金収入(平成24年度入学者に係る学納金等の額1,230,868千円)を除いた平成23年度における実質的な次年度繰越支払資金は6,457,537千円となります。

## ■帰属収入と消費収支の推移

(単位 千円)



## ④ 財産目録

平成24年3月31日現在

I 資産総額	31,227,887,489円
内(一)基本財産	17,228,382,878円
(二)運用財産	13,999,504,611円
II 負債総額	3,115,276,212円
III 正味財産	28,112,611,277円

区分	金額
一.資産	
(一)基本財産	
1 土地	232,847.96㎡ 1,554,303,706円
①校地	232,847.96㎡ 1,554,303,706円
2 建物	75,523.38㎡ 12,101,161,251円
①校舎	71,616.47㎡ 11,807,832,994円
②校外	2,157.26㎡ 189,966,590円
③法人棟	1,749.65㎡ 103,361,667円
3 教具、校具、備品	32,661点 675,161,120円
4 図書	523,000冊 2,664,156,051円
5 その他	233,600,750円
(二)運用財産	
1 現金預金	7,688,404,716円
2 積立金	5,938,940,000円
3 その他	372,159,895円
総額	31,227,887,489円
二.負債	
(一)固定負債	
1 退職給与引当金	1,652,194,642円
(二)流動負債	
1 前受金	1,230,868,000円
2 未払金	93,078,798円
3 その他	139,134,772円
総額	3,115,276,212円
正味財産(資産総額-負債総額)	28,112,611,277円

## ③ 貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位 千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	23,287,091	22,802,396	484,695
有形固定資産	17,228,383	17,503,009	△ 274,626
その他の固定資産	6,058,708	5,299,387	759,321
流動資産	7,940,796	7,991,178	△ 50,382
資産の部合計	31,227,887	30,793,574	434,313

(単位 千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
負債・基本金・消費収支差額の部			
固定負債	1,652,195	1,755,234	△ 103,039
流動負債	1,463,081	1,577,599	△ 114,518
負債の部合計	3,115,276	3,332,833	△ 217,557
基本金の部合計	31,661,512	31,313,244	348,268
消費収支差額の部合計	△ 3,548,901	△ 3,852,503	303,602
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	31,227,887	30,793,574	434,313

注記(一部抜粋)

○減価償却額の累計額の合計額 13,781,022千円  
○徴収不能引当金の合計額 0千円

●固定資産のうち有形固定資産については、建物改修・更新工事および教育研究用機器備品等の取得により増加した一方、機器備品の減価償却等により減少したため、全体で274,626千円減少し、17,228,383千円となりました。また、その他の固定資産については、特定資産への積立が主な要因となり、全体で759,321千円増加し、6,058,708千円となりました。流動資産については、未収入金の減少が主な要因となり、全体で50,382千円減少し、7,940,796千円となりました。

●固定負債の退職給与引当金及び流動負債の前受金が、それぞれ減少したことが主な要因となり、負債の部の合計は、217,557千円減少し、3,115,276千円となりました。

●基本金の部は、中学校の熱源更新工事、大アリーナ空調機更新工事、大学グリーンホール食堂内装工事に係る繰入により、348,268千円増加し、31,661,512千円となりました。

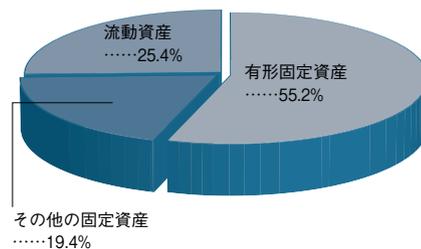
●消費収支差額の部(翌年度繰越消費支出超過額)は、消費収支計算書における当年度消費収入超過額である303,602千円減少し、3,548,901千円となりました。

## ⑤ 収益事業に係る損益計算書

(単位 円)

科目	本年度	前年度	増減
売上総利益	34,832,316	33,340,343	1,491,973
販売費及び一般管理費	27,976,068	37,627,155	△ 9,651,087
営業利益	6,856,248	△ 4,286,812	11,143,060
営業外損益	1,190,154	1,332,070	△ 141,916
経常利益	8,046,402	△ 2,954,742	11,001,144
特別損失	0	360,497	△ 360,497
税引前当期純利益(損失)	8,046,402	△ 3,315,239	11,361,641
当期純利益(損失)	7,144,602	△ 3,315,239	10,459,841
繰越利益剰余金期首残高	△ 5,784,613	△ 2,469,374	△ 3,315,239
繰越利益剰余金期末残高	1,359,989	△ 5,784,613	7,144,602

### ■ 資産の部内訳



### ■ 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部内訳

